

興南・陽明九州頂点

高校ハンド

ハンドボールの第40回九州高校選抜大会・第35回全国高校選抜大会九州地区予選大会最終日は5日、東風平体育館で行われ、決勝戦

男子興南は35-30で大分雄城台を破り、女子陽明は25-17で大分鶴崎を下し、ともに九州の頂点に立った。

女子2位代表の那覇西は代表決定戦で27-22で熊本国府に勝ち、全国大会出場権を獲得した。

男子興南は35-30で大分雄城台を破り、女子陽明は25-17で大分鶴崎を下し、ともに九州の頂点に立った。

女子陽明が、大分鶴崎を速攻としてこき上回り、大差で7年ぶりの優勝を飾った。前半は焦りからミスもあり、得点は伸び悩んだ。「ディフェンスは機能している」と声を掛け合い落ち着きを取り戻し、後半約10分、一線ディフェンスを3-3に変えると相手はあきらめた。速攻やトリッキーな攻めで相手を翻弄(ほんろう)し、差を広げた。

又吉春花主将は「最高。これまで練習してきたことを出して、陽明らしい試合ができて楽しかった」と笑顔を見せた。チームの目標は「全国制覇」。

佐平牧生監督は「セット攻撃などを修正して次の次を以て読んで試合を組み立てられるようにしたい」と、全国に向けて意気込んでいる。

男子興南が、前日までの苦戦を吹っ切るような快勝で、2連覇を決めた。左45度のエース比嘉成希は先制点をはじめ前半で6得点と活躍。「昨日までは前半で点が伸びなかったの、最初から飛ばそうと思った」と、試合の流れを引き寄せたことに納得の表情。ただ、マークがきつくなり後半は3得点。「どんな

にマークされても振り切っていくようにしたい」と反省も。黒島宣昭監督は「前日までのミスの多さを修正できた」と評価。全員プレーで勝つことを喜んだが「ゲームをもっと組み立てられるようになれば」と全国での上位進出に向けて選手の実成長に期待している。

県2位代表の女子那覇西が、代表決定戦で熊本国府を破り、全国切符をつかんだ。前半は一時5点差をつけたが、後半挽回。19分に逆転すると徐々に差を広げ、最後は逆に5点差をつけて勝った。

由良日香里主将は「全国大会にこうしても行きたかった。下地監督は「前半よく我慢した。最後まで、きれいに戦えた」とホッとした表情。けが人が多く、これまでと違うポジションで奮闘した選手も、「互いにカバーして成長できた。チームに負けてこなくて良かった。総体では成長した姿を見せたい」と気持ち切り替えた。



女子決勝 陽明-大分鶴崎 前半、陽明の久志菜摘が2点目のシュートを決める

八重瀬町東風平体育館(田嶋正雄撮影)

攻守圧倒 7年ぶりV

(安里真巳)

代表決定戦

陽明	25	11	9	17	大分鶴崎
那覇西	27	12	15	22	熊本国府

代表決定戦

興南	35	18	13	30	大分雄城台
那覇西	27	12	15	22	熊本国府

小林秀峰(宮崎)	33	20	12	28	ザ
長崎巨匠	22	13	10	18	鹿兒島



男子決勝 興南-大分雄城台 後半、興南の屋比久浩之がシュートを放つ

ミス修正 快勝でV2

男子興南が、前日までの苦戦を吹っ切るような快勝で、2連覇を決めた。左45度のエース比嘉成希は先制点をはじめ前半で6得点と活躍。「昨日までは前半で点が伸びなかったの、最初から飛ばそうと思った」と、試合の流れを引き寄せたことに納得の表情。ただ、マークがきつくなり後半は3得点。「どんな

那覇西全国切符

県2位代表の女子那覇西が、代表決定戦で熊本国府を破り、全国切符をつかんだ。前半は一時5点差をつけたが、後半挽回。19分に逆転すると徐々に差を広げ、最後は逆に5点差をつけて勝った。

由良日香里主将は「全国大会にこうしても行きたかった。下地監督は「前半よく我慢した。最後まで、きれいに戦えた」とホッとした表情。けが人が多く、これまでと違うポジションで奮闘した選手も、「互いにカバーして成長できた。チームに負けてこなくて良かった。総体では成長した姿を見せたい」と気持ち切り替えた。



女子代表決定戦 那覇西-熊本国府 後半、那覇西の玉城令也がシュートを放つ

コザは逃す

男子興南は35-30で大分雄城台を破り、女子陽明は25-17で大分鶴崎を下し、ともに九州の頂点に立った。

女子陽明が、大分鶴崎を速攻としてこき上回り、大差で7年ぶりの優勝を飾った。前半は焦りからミスもあり、得点は伸び悩んだ。「ディフェンスは機能している」と声を掛け合い落ち着きを取り戻し、後半約10分、一線ディフェンスを3-3に変えると相手はあきらめた。速攻やトリッキーな攻めで相手を翻弄(ほんろう)し、差を広げた。